

一昔前の幼稚園は、夏休みあけの数日を、雑草の駆除に追われるのが常であった。園庭一面が、夏草で覆われたからである。

コンクリートの園庭には、夏草の伸び繁る余地もなく、最近の保育者は、この仕事から解放された。と同時に、子どもたちも、長い休日の名残りの庭に、虫や小動物を発見したり、思いがけない野の花に接する喜びを、失なってしまった。子どもたちから、雑草は、日毎に遠ざかり、コンクリートは、益々、身近なものになっていく。

ここで、私は、こと新しく自然の喪失を歎いたり、訪れる危機に対していまさららしく警鐘を鳴らしたりするつもりはない。たゞ、これらが物語るのは、人間の生活の確実な変化なのだということ、そして、それは、恐らく、子どもの想像力をも、根底から変貌させるに相違ない

ということを、改めて見つめておきたいと思うだけだ。

子どもの成長は、古くから、植物との譬喩で語られることが多かった。例えば「せんさんは、二葉より芳し」とか、その逆に、「悪い芽は、二葉のうちに摘め」などのように……。

植物の種子と土壌の関係が、受胎の隠喩となり、植物のゆっくりした成長が、子どものそれと隠喩的に結びつけられたということなのだ。そして、それが、よくも悪くも、私どもの子ども観や子育て観の核となってきた。

自然が私どもから遠ざかり、植物も身近なものでなくなったとき、子どもの成長は、どのような隠喩と結びつけられるのだろうか。

私どもがいま気付かねばならないのは、外観としての生活の変貌にもまして、想像力の変貌と、その貧困化ではな

(H)

幼児の教育 第八十一巻 第九号

九月号 © 定価二七〇円

昭和五十七年八月二十五日 印刷
昭和五十七年九月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

*万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。